あいちデジタルヘルスプロジェクト

2025年度「あいちデジタルヘルスプロジェクト」社会実装・共創基盤整備事業委託業務仕様書

愛知県

Agenda

1. 依頼の背景とプロジェクト概要
    1.1 依頼の背景と目的
    1.2 プロジェクト概要
    1.3 ビジネスマイルストーン・スケジュール

2. 依頼概要
    2.1 サービス/システム概要：目指す姿
    2.2 ポータル・データ基盤に求められる事項
        - 機能要求
        - 業務要求
        - 非機能要求
    2.3 プロジェクト管理に関する事項
    2.4 その他の事項

Agenda

1. 依頼の背景とプロジェクト概要
   - 1.1 依頼の背景と目的
   - 1.2 プロジェクト概要
   - 1.3 ビジネスマイルストーン・スケジュール

2. 依頼概要
   - 2.1 サービス/システム概要：目指す姿
   - 2.2 ポータル・データ基盤に求められる事項
     - 機能要求
     - 業務要求
     - 非機能要求
   - 2.3 プロジェクト管理に関する事項
   - 2.4 その他の事項

依頼の背景と目的

依頼の背景 (本取組について)

愛知県では、これまで以下のような認知症対策や健康長寿といった社会課題を、スタートアップ/イノベーション/デジタル技術等によって解決しようという取組を進めてきた

- 「あいちオレンジタウン構想第2期アクションプラン」の策定 (2020年12月)[1]
- 「革新事業創造戦略」の策定 (2022年12月)[2]

こうした中、デジタル技術等を活用して、県民の健康寿命延伸と生活の質 (QOL) 維持・向上に貢献する各種サービス・ソリューションの創出を目指す「あいちデジタルヘルスプロジェクト」を立ち上げることとし、推進母体として「あいちデジタルヘルスコンソーシアム」(2023 年9月)を設立、2024年3月には取組の全体像を示した基本計画を策定した

2024年度以降は、上記コンソーシアムを中心として、取組の具体化を進めており、この度、中核となる「デジタルヘルス社会実装・共創基盤(ポータルサイト・データ連携基盤の整備)」構築の検討に着手した

なお、2024-2028年度は、国の新しい地方経済・生活環境創生交付金により、事業を推進する

依頼の目的

本調達事業では、オンラインによる効果的なサービス・ソリューションの提供や県民のライフログデータを活用した新たな価値創出の機能を担う、ポータルサイト・データ連携基盤の整備を行う。

「あいちデジタルヘルスプロジェクト」の実現に向け、最適な内容をご提案いただきたい。

1. 愛知県『あいちオレンジタウン構想 第2期アクションプラン 概要版』(2020年); 2. 愛知県『革新事業創造戦略 概要版』(2022年); 3. 愛知県 『あいちデジタルプロジェクト』(2024年)

あいちデジタルヘルスプロジェクト: 3つの取組と本調達

産学官金の共創を促進し、愛知県での社会実装を推進するため、「1. デジタルヘルス社会実装先行事業」、「2. デジタルヘルス共創促進事業」、「3. デジタルヘルス社会実装・共創基盤構築事業」の3つの取組を実施する

1. デジタルヘルス社会実装先行事業 (新サービス等の実証・実装支援)

早期に社会実装を目指す7つのテーマについて、長寿研等の学術的な知見を活かし、**産学官金連携による新サービス等の創出プロジェクトの実証実験・社会実装を支援**

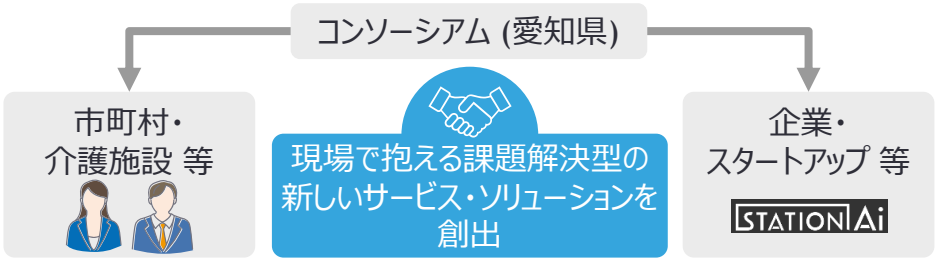
取組の3つの柱	社会実装を図る取組テーマ
柱①: フレイルへの進行予防	1. ライフログデータを活用した総合的な高齢者支援 2. PHRを活用した予防運動プログラム 3. デジタル食事改善プログラム
柱②: 生きがいづくり	4. オンラインを活用した高齢者の社会的交流支援 5. 一人暮らし高齢者向けの外出・交流支援
柱③: 地域居住・生活支援	6. 音声対話ツールを活用した高齢者のICTへのアクセシビリティ向上 7. 対話型ツールを用いた健康・生活機能の持続的なモニタリング

2. デジタルヘルス共創促進事業 (新サービス等の創出支援)

長寿研等の学術的な知見を活かし、「1.デジタルヘルス社会実装先行事業」の7テーマに続く**様々なサービス・ソリューションを創出する仕組みを構築**

①新テーマの創出支援:
高齢者課題を保有する市町村・介護施設等と解決策を持つ企業・スタートアップとのマッチング支援等

②コンソーシアムの運営を通じた支援:
統括コーディネーターの配置、各種補助金等の獲得支援、研究機関・大学や医療・介護現場との連携、有識者による講演会や研究会等の開催 等

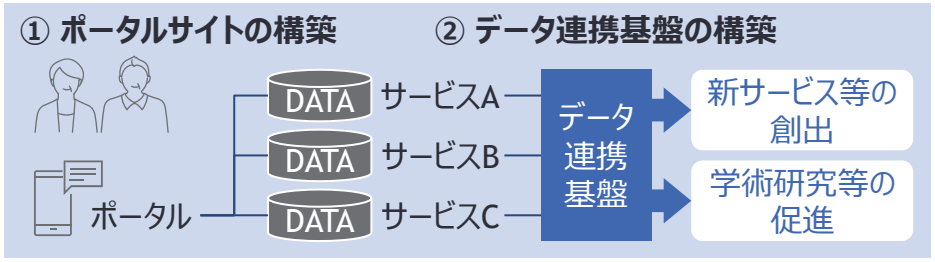


3.デジタルヘルス社会実装・共創基盤構築事業 (ポータルサイト・データ連携基盤の整備)

オンラインによる効果的なサービス・ソリューションの提供や、県民のライフログデータを活用した新たな価値創出を目指すため、以下の取組を検討

- **本プロジェクトのサービス・ソリューションを県民に提供するポータルサイトの構築**
- ポータルサイトから得られた**各種データを活用し、サービス間の連携や各データ間の連携による新たな価値の創出を図る「データ連携基盤」の構築**

本調達

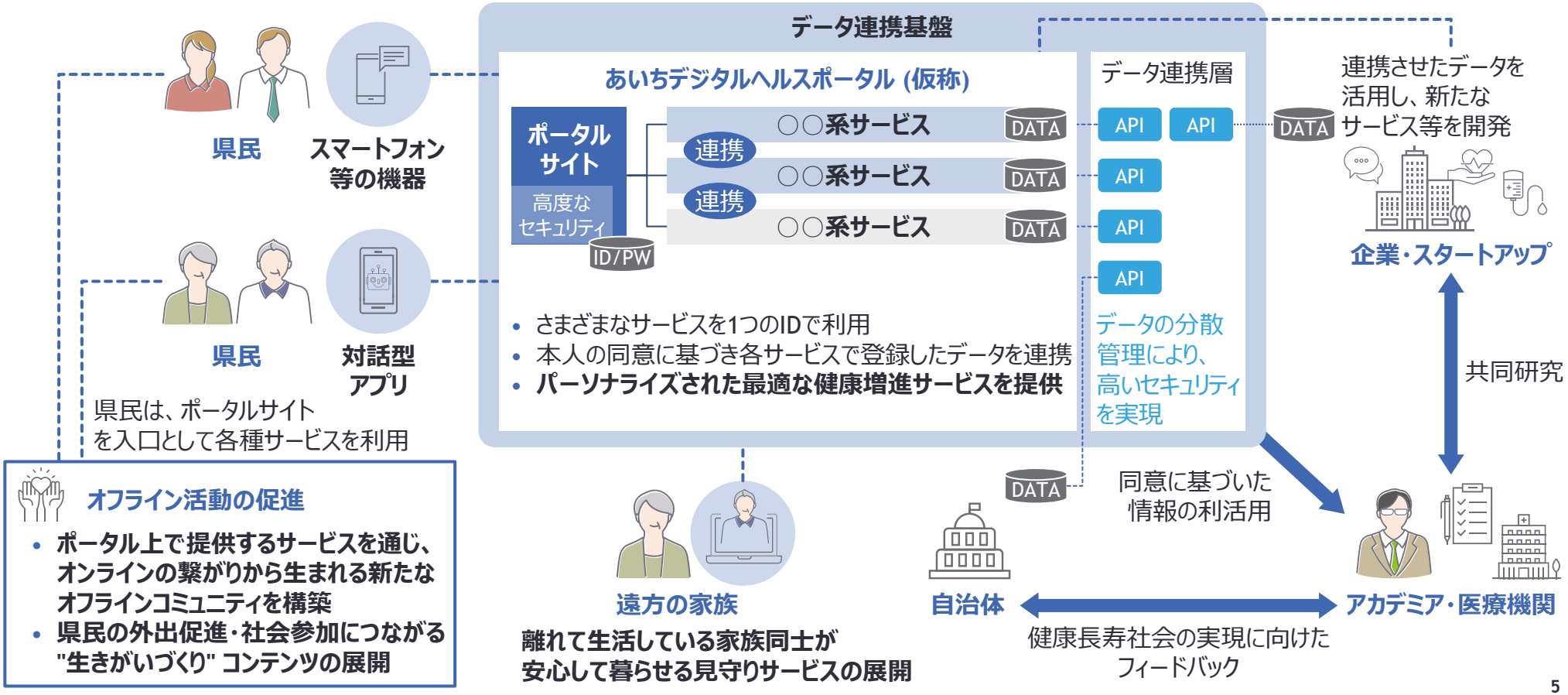


サービス全体像: 3. デジタルヘルス社会実装・共創基盤構築事業 詳細

オンラインによる効果的なサービス・ソリューションの提供や、県民のライフログデータを活用した新たな価値創出を目指すため、以下の取組を検討していく

- 本プロジェクトのサービス・ソリューションを県民に提供する住民向けポータルサイトの構築。構築にあたっては、デジタルデバイスを普段利用しない高齢者を始め、誰もが使いやすく、安心して利用できるUI/UXを検証
- ポータルサイトから得られた各種データを活用し、サービス間の連携や各データ間の連携により、新たなサービス開発や学術研究等に活かす「データ連携基盤」の構築
- 「データ連携基盤」においては、本人の同意に基づき各サービス等から得られた県民のライフログデータ等を連携

ポータルサイト・データ連携基盤を通じ実現を目指す世界観



ポータルサイトのコンセプト (ポータルサイト構築の意図)

ポータルサイトは、愛知県内の高齢者をメインターゲットとして整備。
本プロジェクトの先行事業・共創促進事業で実証している個別サービスを高齢者に提供する窓口としての機能のほか、
ポータルサイト単体として、高齢者の利用を拡大し、健康増進活動を促すような機能を具備。

考え方

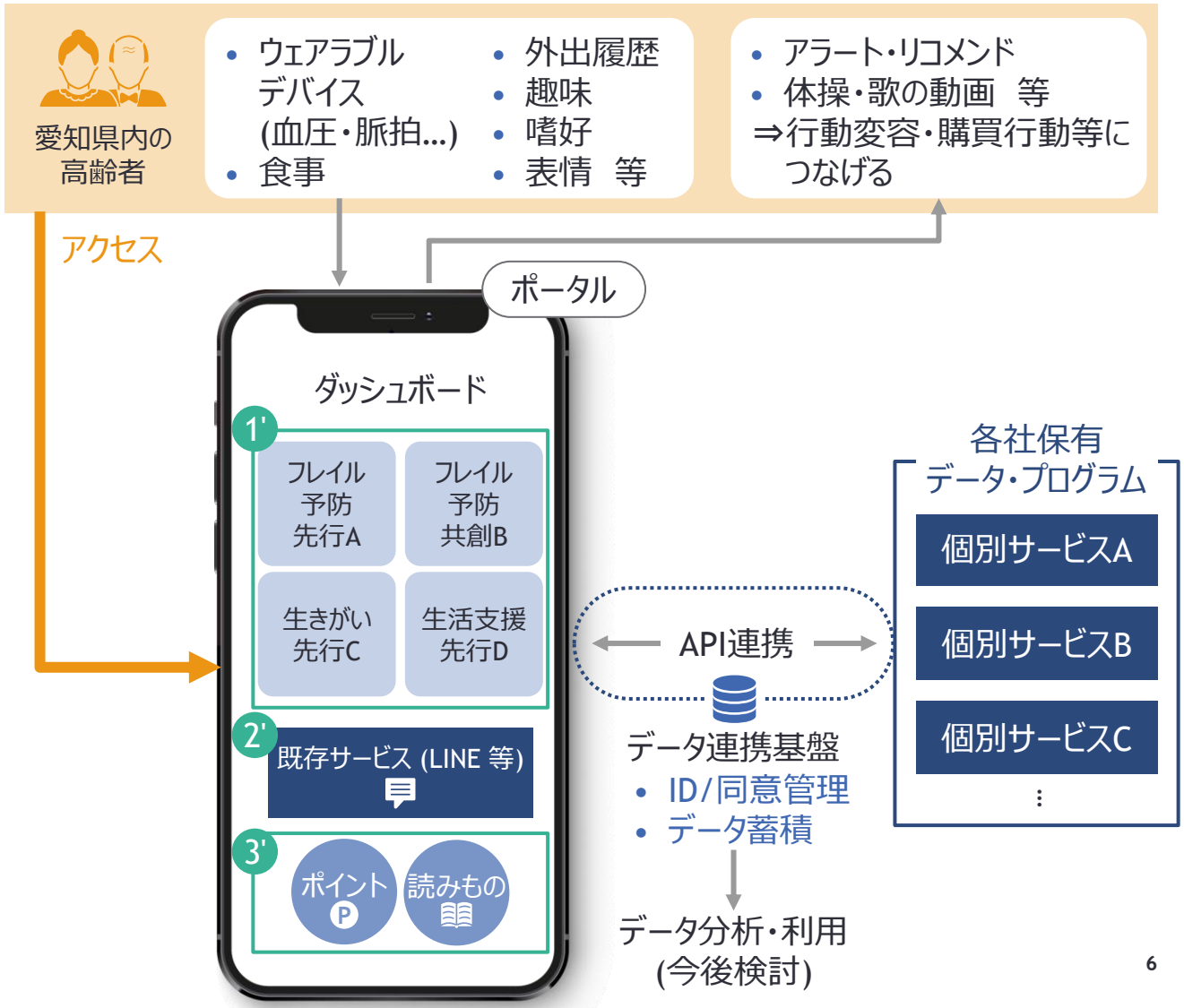
ポータルの実現イメージとしては、
ユーザーの使い勝手を考慮し、アプリを想定している

ポータルに接続されるサービス・機能は以下3つ

1. 先行・共創事業で創出されるサービス
2. ユーザーの多い既存サービス
   - 例) LINE 等
3. ポータル自体が持つ機能
   - 例) ポイントや読みもの、ゲーム 等

2025年度開発においては、本事業のユーザ窓口となるポータルサイトのローンチを最優先事項とし、データ連携基盤はローンチ後サービス・データ拡充に向けた仕組みを整備する。

ポータル・データ連携基盤のイメージ



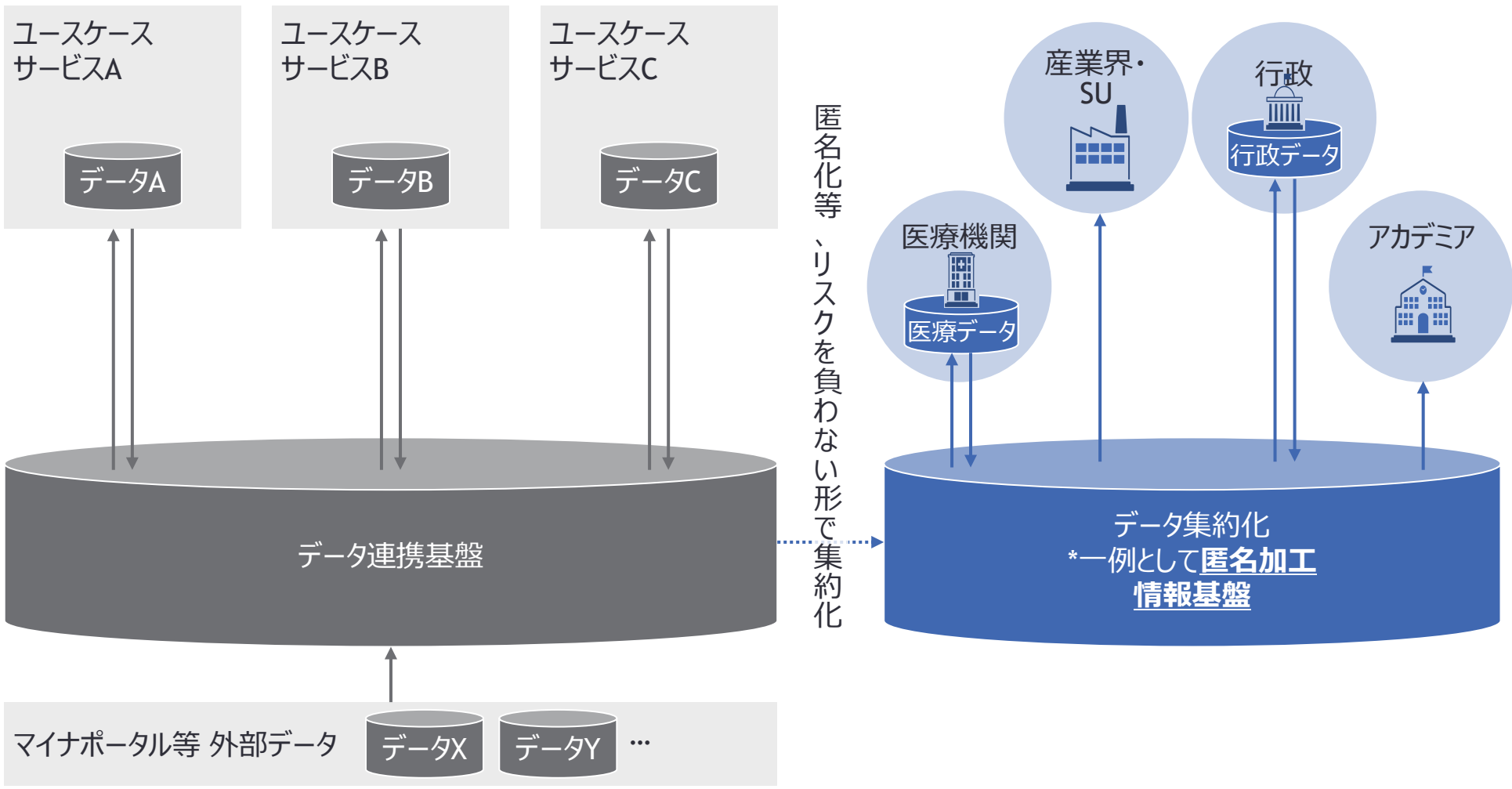
データ活用コンセプト (データ連携基盤導入の意図)

データ連携基盤を媒介として各事業者サービスを高度化。その過程で収集・蓄積されたデータの将来的な利活用も見込む

データ連携によるサービスを創出する

得られたデータを利活用する

モデルイメージ



ビジネスマイルストーン

デジタル田園都市交付金期間（5年）

		立ち上げ期間 (~3年)	移行期間 (3~6年目頃)	移行期間終了後 (7年目頃~)
各フェーズの位置付け		提供価値成立の検証と品揃え拡充 • サービス (価値) 提供の成立をテスト • 収益化より検証を優先 • (交付金を活用)	プレミアムサービス展開 • サービスの提供ルートと対象を拡大 • 対価を徴収し、ビジネス化を実現	集客/収益化の加速 (サービス拡大) • サービス/機能を充実させ、n数を拡大
運営	データ連携基盤に接続するサービス	先行事業[1] + 共創事業[2] の一部	先行事業 + 共創事業 ※初期予定事業の完成と事業拡充	
	県の財政支出	全額	一部	
サービス提供[3]	提供ルート (売り方)	各サービス事業者がユーザーにサービスを直接販売	各サービス事業者による直接販売 + ポータルサイトを通じた提供	各サービス事業者による直接販売 + ポータルサイトを通じた提供
	ターゲット	• 県民 (ユーザー自身 + その家族)	• 県民 (ユーザー自身 + その家族)	• 県民 (ユーザー自身 + その家族) • 各種組織 (市区町村、企業等)
	課金方法	• サービス利用料の個別徴収	• サービス利用料の個別徴収 • サービスセット (バンドル) のサブスク料金	• サービス利用料の個別徴収 • サービスセット (バンドル) のサブスク料金
ポータルに求められる役割[4]		• メディア 各サービスへの集客及び送客機能	• メディア 各サービスへの集客及び送客機能 • 会員サービス (ミニマム版) • ユーザー情報管理、ポイント管理等 最低限の機能の提供	• メディア 各サービスへの集客及び送客機能 • 会員サービス (拡充版) パーソナライズ等各サービスの機能向上等、サービスを拡充
サービス提供以外のビジネスモデル		(ー)	(ー)	• 集約した匿名化データの外部への販売

データ連携基盤・ポータルサイトの運用スケジュール (イメージ)

1. PHRアプリ事業者との連携により収集する手法も想定可能。検討中

Agenda

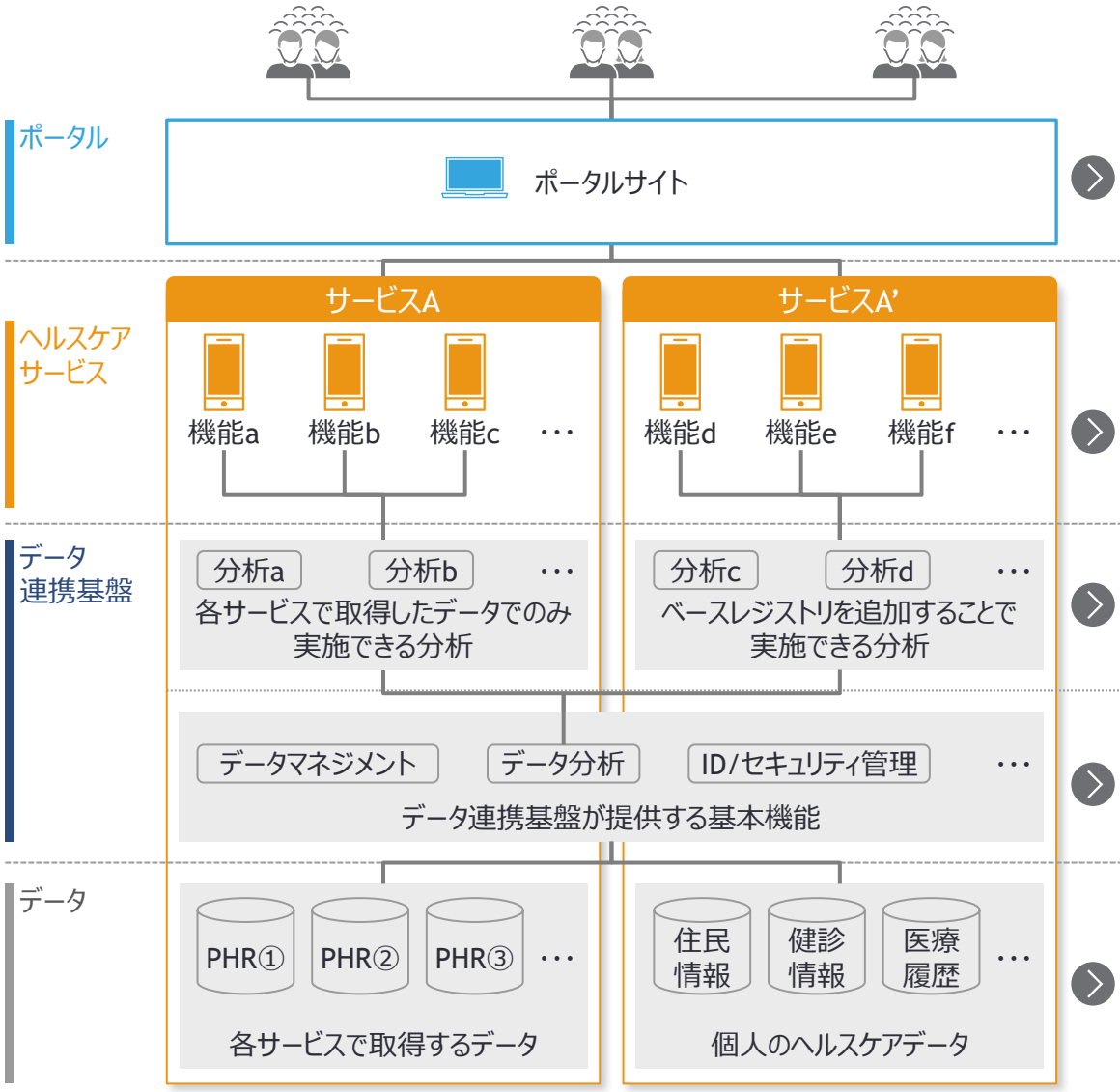
1. 依頼の背景とプロジェクト概要
   - 1.1 依頼の背景と目的
   - 1.2 プロジェクト概要
   - 1.3 ビジネスマイルストーン・スケジュール

2. 依頼概要
   - 2.1 サービス/システム概要：目指す姿
   - 2.2 ポータル・データ基盤に求められる事項
     - 機能要求
     - 業務要求
     - 非機能要求
   - 2.3 プロジェクト管理に関する事項
   - 2.4 その他の事項

対事業者向けサービスの全体像

ポータルサイト・データ連携基盤の整備を通じて、特にサービス事業者向けに以下のような価値を提供を目指す。
コンソーシアムとしての価値提供とサービス事業者の参加/サービス提供・向上の循環により、ユーザーへの提供価値を強化

あいちデジタルヘルスサービス (イメージ)



コンソーシアムが提供する価値

サービス事業者向け (コンソーシアム内)

ア サービスの普及:
- 公的機関の提供サービスという信頼性に基づく集客効果

イ サービスの価値向上: 様々なデータの活用による分析/サービスの強化
- 各サービス間のデータ連携や個人のヘルスケアデータ等、使用可能なデータの種類を低コストで増やすことができるため、新規/隣接機能・サービスの構築が容易

ウ ヘルスケアPFの基本機能の提供
- サービス事業者の基本機能、データ流通機能、データガバナンスの提供

イ サービスの価値向上: データの種類/量の増強
- 個人のヘルスケアデータを本人同意のもとで一括で提供
- 連携により網羅的にデータ収集可能

外販向け (コンソーシアム外)

あいちモデルの展開

- サービスの県外/他社への展開
- 分析モデルの外販
- PFインフラの横展開

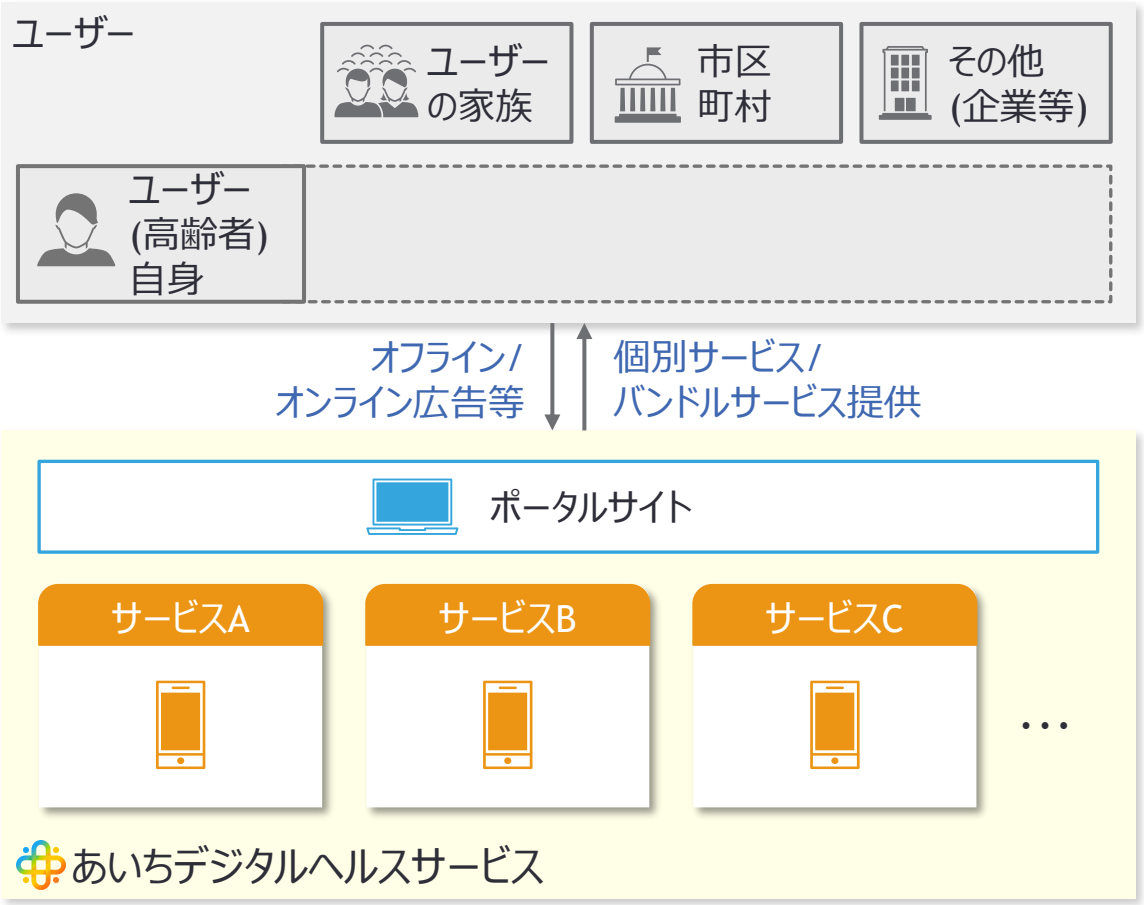
ア サービスの普及：ポータルサイトのコンセプト

あいちデジタルヘルスプロジェクトでは、ポータルサイトを起点としてサービスを展開する

サービス普及のコンセプト: ポータルの役割

初期はポータルサイトをヘルスケアサービス利用の起点とし、各サービスを展開
将来的には、以下のような取組も検討し、サービスの普及を目指す。

- オフライン/オンラインの幅広い導線からの集客
- 専用サービス (職域別、市区町村別サービス) の展開による団体顧客の取り込み



ポータルへの要求事項

大きく2種の機能を想定する。各機能の具体的なイメージは以下に記載の通り。記載した内容以外にも追加で必要と考えうる機能があれば、ご提案いただきたい

① ヘルスケアサービス利用の起点となるメディア機能

- サービスのリストアップ/紹介
- 検索やレコメンド等のニーズマッチング
- ヘルスケアに関する情報やサービス利用者のインタビュー等の記事発信
- コンテンツ管理等の運営補助機能
- オフライン連携機能
  オフライン企画の告知、オフラインからの登録・サービス利用機能　等

② 会員サービス提供

- サービスと連動し回帰性/回遊性を高める機能
  健康状態の見える化ダッシュボード等
- ポイントサービス (会員プレミアムサービス)　など

ポータルのコンセプトを実現するために必要な機能をポータル/連携基盤のいずれで持つかについて、現時点ではシステムブループリント（後述）の配置を想定するが、あくまで想定案であり、この限りではない。コンセプトの実現に必要な機能及びその配置は、基本的に自由

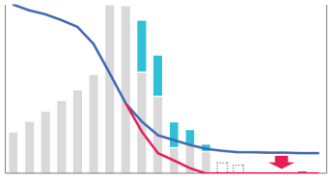
イサービスの価値向上：データ活用のイメージ

データ連携基盤については、将来的な機能拡張を可能とすることにより、本プロジェクトを通じて得られるデータを利活用した様々なユースケースの検討につなげていく。

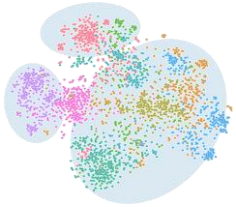
データ連携基盤の活用事例のイメージ（データを用いた新規施策導出のイメージ）

バーチャル

シナリオシミュレーション



クラスタリング



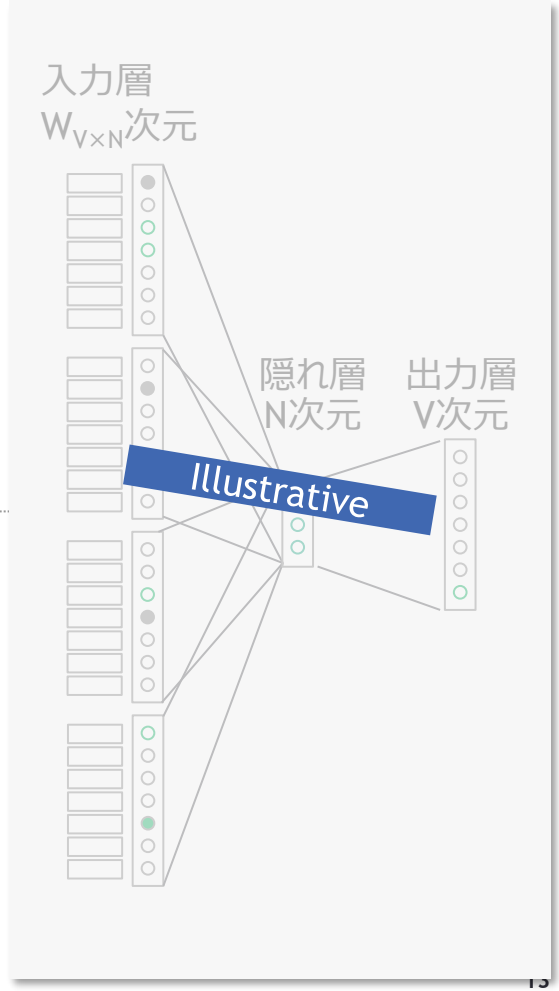
❸ 分析結果を使用した新規機能/サービスの立案

- 蓄積データによる異常アラートの精度向上
- 行動結果を踏まえた新規行動提案

❷ 蓄積データを可視化/分析し、
- 既存機能の改善をシミュレーション
- 健康改善に有効な新しい要素を解析

❼ 十分なデータ量で証明済みの内容をモデル化 (外販も含む)

健康改善行動変容モデル

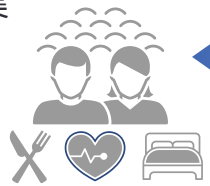


あいちデジタルヘルス データ連携基盤

リアル

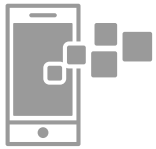
❶ サービスを通じて、PHRを収集

❻ 結果を可視化し、新規施策の効果を検証



❺ ユーザーの健康増進の加速

❹ 新規サービスを実装し、ユーザーに提供



Agenda

1. 依頼の背景とプロジェクト概要
   - 1.1 依頼の背景と目的
   - 1.2 プロジェクト概要
   - 1.3 ビジネスマイルストーン・スケジュール

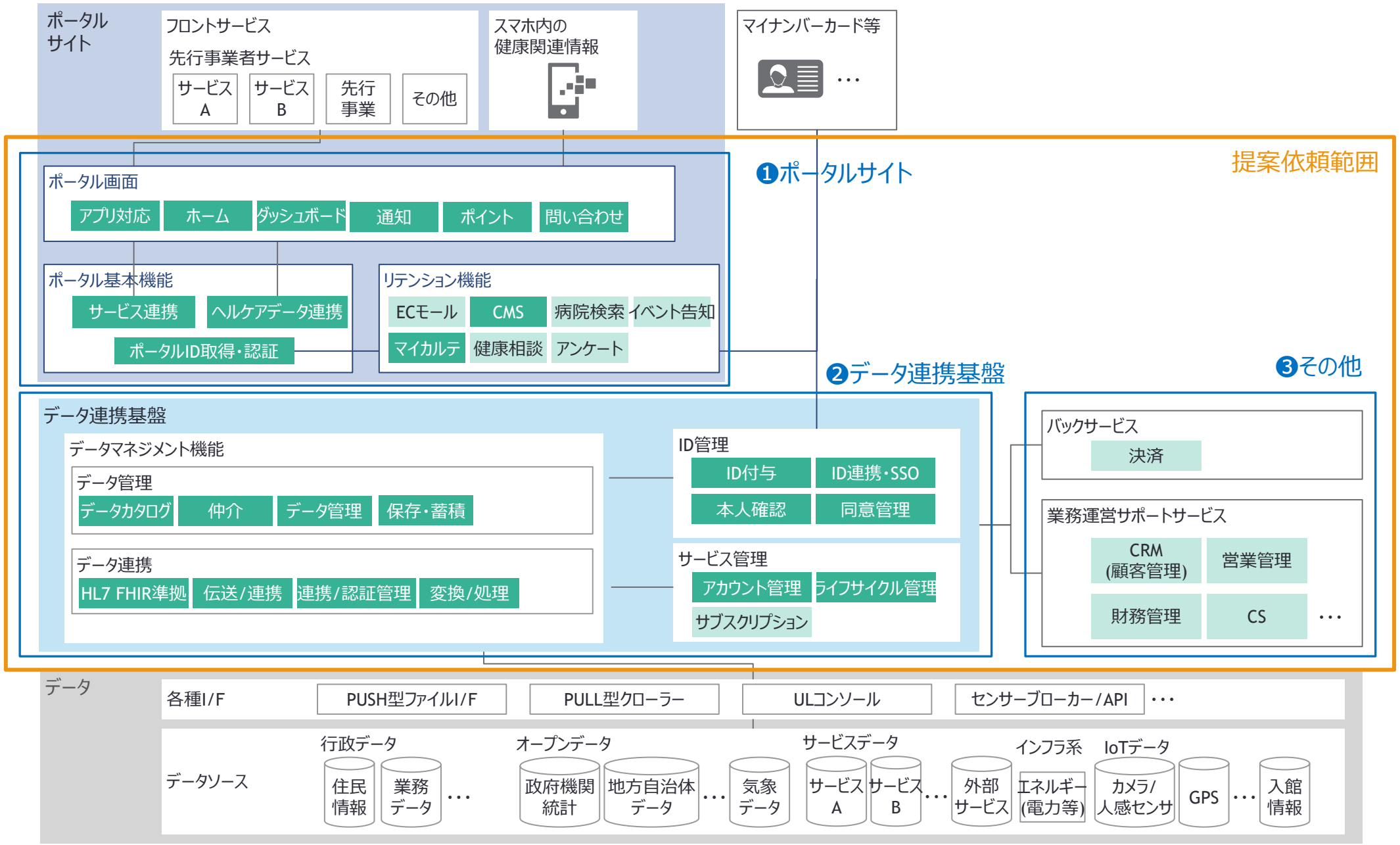
2. 依頼概要
   - 2.1 サービス/システム概要：目指す姿
   - 2.2 ポータル・データ基盤に求められる事項
     - 機能要求
     - 業務要求
     - 非機能要求
   - 2.3 プロジェクト管理に関する事項
   - 2.4 その他の事項

システムブループリント (最新版)

愛知県

必須要件　加点要件

Illustrative



ポータルのサービスイメージ：ユーザーストーリーと関連するシステム・機能

	ストーリー名	ユーザー種別	業務内容	提供価値	関連システム・機能	
					システム	機能分類
ポータルサイトを通じたサービスの提供	各種ヘルスケアサービス利用	県民 (高齢者) • スマホを保有しアプリ操作できる高齢者	サービス事業者が提供するヘルスケアサービスをポータル経由で申込み、利用する ※サービス個別の決済に加えて、複数サービスをバンドルした決済も検討予定	ポータルを通じ健康の情報を収集し、健康に繋がる行動を促す	ポータルサイト	基本画面
					データ連携基盤	決済
	ポータルサイトの回遊	県民 (高齢者) • スマホを保有しアプリ操作できる高齢者	ポータルサイト内にある各種コンテンツ等を利用 • ポータルに定期的に訪れて情報や行動を起こす	健康増進に役立つ記事や利便性の高いサービスで、ユーザがポータルを訪れることを習慣化させ、結果としてポータルの利用継続を促す	ポータルサイト	必要サービス機能（内部・外部） ポイント機能
	健康状態の確認	県民 (高齢者) • スマホを保有しアプリ操作できる高齢者	ポータルサイト内で自身の健康情報を確認 • ポータルに定期的に訪れて情報や行動を起こす	ポータルを通じ健康の情報を収集し、健康に繋がる行動を促す • 結果としてポータルの利用継続を促す	ポータルサイト	基本画面（ダッシュボード機能）
	健康状態・利用状況共有	県民 (高齢者) の家族 医療機関 自治体	• 高齢者のサービス利用状況を把握し、関係者へ共有する	• 高齢者をケアする家族・諸団体が健康状態や利用状況を把握し、ケアの参考とする	ポータルサイト	基本画面（ダッシュボード機能）

ポータルのサービスイメージ：主要ページのデザインコンセプト

アプリホーム画面

- 先行・共創事業で創出される各種ヘルスケアサービス利用の入り口となる
- ポータルサイトへの回遊率を高めるため、既存サービスや、各種記事、ポイントサービス等も掲載

先行・共創事業で創出されるサービス

※ユーザが利用申請したものが表示される

利用者が多い既存サービス
例) LINE

ポータル自体が持つコンテンツ
例) ポイントや記事、ゲーム 等

ダッシュボード画面

- 利用ユーザの健康やその他のFACT情報とそれをベースにした注意喚起やおすすめ情報を提示
- 納得感のあるガイダンスで、利用ユーザの健康に関する行動変容を促す

ユーザの健康状態やその他のFACT情報を表示

上記FACT情報をベースにユーザにとって納得性のあるガイダンスを表示。

関連する各ヘルスケアサービスへのリンクを表示しユーザを誘導。

❶ポータルサイト詳細：画面イメージ（アプリホーム）

画面に関する要求事項

- Android／iOSデバイスで提供
  （タブレット含むマルチデバイスデザイン
  を想定）
- ローンチ時のOS／ブラウザの最新バージョン
  をサポートすること。ローンチ後は継続的な
  バージョンアップと旧バージョンアプリの稼働保
  証を実施すること（APIを数世代アプリで保
  証する等。詳細は要件定義工程で協議）
- 画面設計では、iOS / Android が定める設
  計ガイドラインを遵守し、ホームボタンやタブ
  などのコンポーネントを適切に設計すること
- 段階的にサービス・機能を追加することを前
  提とした拡張性の高い画面設計にすること
- ポータルと各サービス間で操作方法が
  異なることによって利用者に混乱を
  招かないよう、一貫性のあるインター
  フェースを提供しユーザビリティを担保すること
- 高齢者※1 が主ユーザーとなることを踏まえ、
  ユーザビリティ・アクセシビリティに配慮すること

※1 初期的には、2040年時点での高齢者（現時点の50歳以上）もターゲットに含め、デジタルリテラシーの高いスマホユーザーを対象に、N数の獲得を目指す想定。

アプリホーム画面イメージ

❶ポータルサイト(1/3)

分類	機能名	詳細	要求レベル	実現時期
ポータル画面	スマートフォンアプリ対応	iOSおよびAndroidのネイティブアプリとして提供すること。ただし、ネイティブアプリと同等の機能・ユーザー体験を提供できる場合に限り、ブラウザ (PWA形式) での提供も可とする	必須	2025年度
	ホーム機能	先行＋共創促進事業の各ヘルスケアサービス、記事やポイント等ポータル自体が具備するコンテンツ・サービスを表示し、利用者の回帰性／回遊性を高める機能を実装すること その他、以下を考慮した企画を求める（任意の提案事項） • 利用者にパーソナライズされたおすすめサービスをレコメンドする（2027年度以降対応）	必須 加点幅あり	2025年度
	ダッシュボード機能	先行＋共創促進事業の各サービスへリンクができるように実装すること その他、以下を考慮した企画を求める（任意の提案事項） • 各サービスで得た結果情報を表示するなど、利用者が日々健康状態を把握できる利便性の高いインターフェースを設計すること • 個別サービスとの連携が可能な拡張性を担保すること • その他、ポータルや各サービスの利用率アップにつながる工夫をすること • 家族等も利用者の健康状態や利用状況を閲覧できるようにすること（2026年度以降対応）	必須 加点幅あり	2025年度
	お知らせ通知機能	管理者が発信するお知らせを利用者に通知できるようにすること	必須	2025年度
基本機能	ポータルID取得・認証機能	• データ連携基盤に含まれるID取得・認証機能とは別に、ポータルサイト独自でID取得認証機能を実装すること。さらに、両IDを紐付けられるよう連携を行うこと • 上記の連携にあたっては、セキュリティの担保された連携方式を取ること(SAML, Open ID connect等) • ポータルID取得認証に際しては、マイナンバーカードの利用者署名用電子証明書や４情報の取得等を利用した本人確認を行うこと（なお、県民・非県民に加え、在住市町村の識別を行うこと）	必須	2025年度
	スマートフォンOSで取得するヘルスケアデータとの連携	スマートフォン内のヘルスケア関連データをAPIで取得・連携して表示すること その他、以下を考慮した企画を求める（任意の提案事項） • ヘルスケアデータの取得項目は、ダッシュボード機能やポイント機能等の利便性向上に向け必要十分な項目を定めること	必須 加点幅あり	2025年度
	外部サービスとの連携	• 先行＋共創促進事業で創出されたサービスとはAPI連携を行うこと。ポータルはAPI利用者となり、各サービスやデータ連携基盤が開示するAPI（個人のヘルスケア情報や診断結果情報等の提供を想定）にアクセスする機能を保有すること。その際APIへ渡す個人のID情報はデータ連携基盤から取得すること。※ • APIの仕様は先行＋共創促進のサービス事業者に公開し、サービスとの連携可否・連携方法が理解できるようにすること その他、以下を考慮した企画を求める（任意の提案事項） • APIの仕様は拡張性を担保するともに、事業者にとって開発しやすいものであること	必須 加点幅あり	2025年度

※基本的にはデータ連携基盤のAPIを利用して外部サービスと連携する想定であるが、実際のアーキテクチャの検討の中ではポータルとサービスが直接連携する可能性もあるため

❶ポータルサイト(2/3)

分類	機能名	詳細	要求レベル	実現時期
ポイント	ポイント機能	ポータルアプリや先行・共創促進事業で生み出されたサービスの利用、データ連携の同意等の、ユーザーの健康増進に繋がる活動に対するインセンティブとして、ポイントを付与する機能を実装すること。 また、付与したポイントはアプリ内のゲーミフィケーションや各機能（モール、決済サービス）での活用、その他外部ポイントサービスとの互換性を持たせるなど、ユーザーの継続利用につなげる機能を実装すること。 なお、以下の点を考慮すること（任意の提案事項） • ポイントの算出方法は、利用者にとってわかりやすくシンプルな方法とすること • 先行・共創促進事業の特定サービスにおけるポイントの付与・利用、ポータルの独自サービスにおけるポイントの付与・利用等、ポイントの使途と利用主体によってポイント原資の請求先を管理できること	必須 加点幅あり	2025年度
その他	問い合わせ機能	具体的な連絡手段 (メール and/or Chat Bot) も含めて提案すること 運用にあたっては、以下の点を考慮すること（任意の提案事項） • ローンチ後の本機能を利用したヘルプデスク業務についても、受託者の責任において行うことが望ましい （ヘルプデスク業務については、業務要求パートにて後述） • その他、具体的な運用イメージを提案すること （「よくある質問」やChat Botを活用するなど、運用コストを下げる工夫をすること）	必須 加点幅あり	2025年度

❶ポータルサイト(3/3)

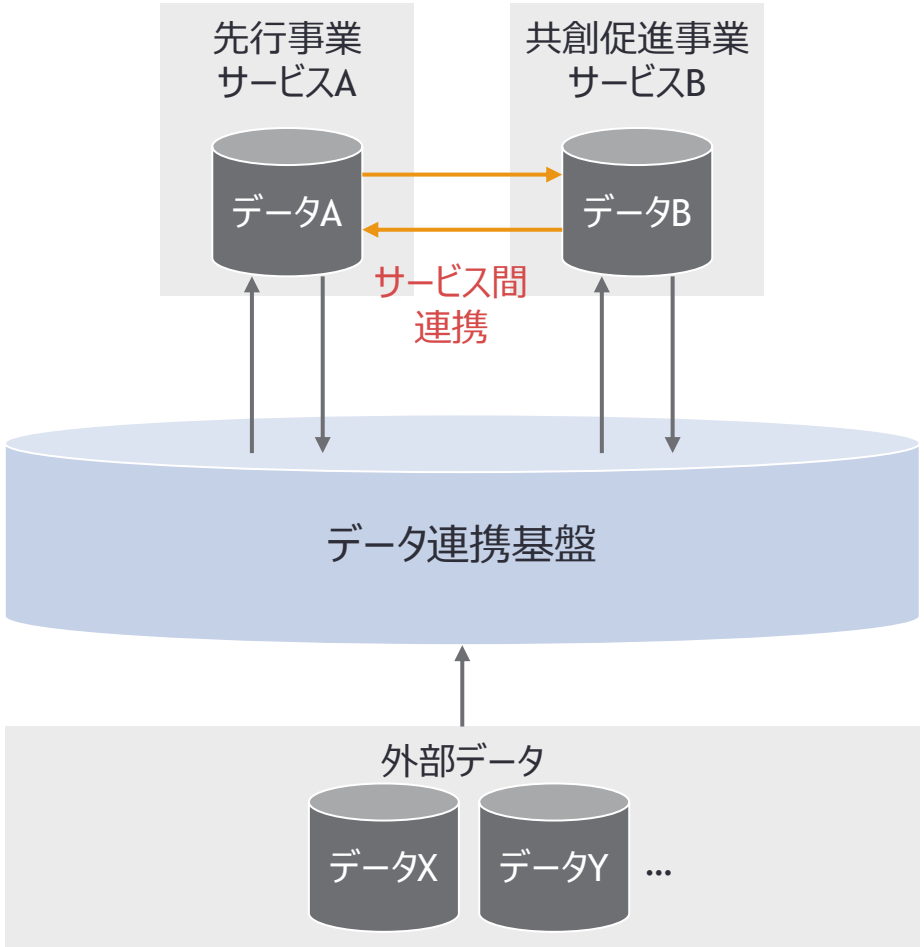
分類	機能名	詳細	要求レベル	実現時期
ポータル内サービス	ECモール機能	• ヘルスケア製品に特化したECモールを構築する機能を具備すること • 本機能の提案にあたっては、ECモールに参画するコンソーシアム会員企業と製品の取り扱いに関する協議も実施・主導すること (民間事業者間の調整も担う) • 本機能をポータルアプリ内に実装することが望ましいが、外部ECモールサービスの活用も可とする。	推奨 (低)	ー
	マイカルテ機能	スマホOSとのAPI連携により、歩数・体重・睡眠時間等の健康情報を表示・管理すること その他、以下を考慮した企画を求める（任意の提案事項） • データを基に、健康アドバイスやトレンド分析等、利便性を向上する機能を検討すること • 取得項目の追加時の拡張性を担保すること • 先行＋共創促進事業の各サービスが保有する、個人の健康情報等とも連携すること	必須 加点幅あり	2025年度
	CMS機能	• 管理者が告知や役に立つ読み物を自身で掲載するためのCMS機能を具備すること • リリース初期に必要な告知や基本的な記事は、県・コンソーシアムと提案事業者で協議の上、既出サイトの記事を集約・公開、ないしは提案事業者が新規で記事ページ作成を行う等の対応を実施すること なお、記事については一定のエビデンス・公共性を担保すること その他、以下を考慮した企画を求める（任意の提案事項） • CMS機能は、適用範囲が今後拡大するものとして実装方法 (パッケージ活用含む) を選定すること	必須 加点幅あり	2025年度
	イベント募集告知機能	管理者がイベントの詳細内容を掲載するためのイベント募集告知機能を具備すること。なお、外部の情報発信ツール（自治体のLINE公式アカウント等）と連携するなど、情報発信力を高める工夫があることが望ましい	推奨 (高)	ー
	健康相談	• 利用者からの健康相談を受け付ける機能を具備すること。受付の方法は利便性の高い手法とすること • 相談を受けるスタッフ等の手配・業務の設計についても実施すること • 機能の具備にあたっては、地域医療機関への受診の妨げにならないよう考慮すること	推奨 (低)	ー
	医療機関検索	• 本ポータルと提携する診療所を含めた医療機関の検索機能を具備すること。 • 医療機関情報については管理者から提供する想定はなく、信頼性ある情報を基に実装すること。	推奨 (低)	ー
	アンケート機能	• ユーザーへ定期的にアンケートができる機能を具備すること • 外部サービス活用も可とするが、ID連携でポータルのどのユーザからのアンケートかを捕捉できること • アンケートの結果をもとにポータルサービスの利便性向上に寄与する施策を実施できるよう、実施・回答履歴はデータベースへ保存すること	推奨 (高)	ー

❷データ連携基盤詳細：初期整備／拡張の方針について

初期的には軽い基盤を整備。将来的に各サービスの高度化や、効果検証の観点で分析・蓄積機能の拡張性を求める。

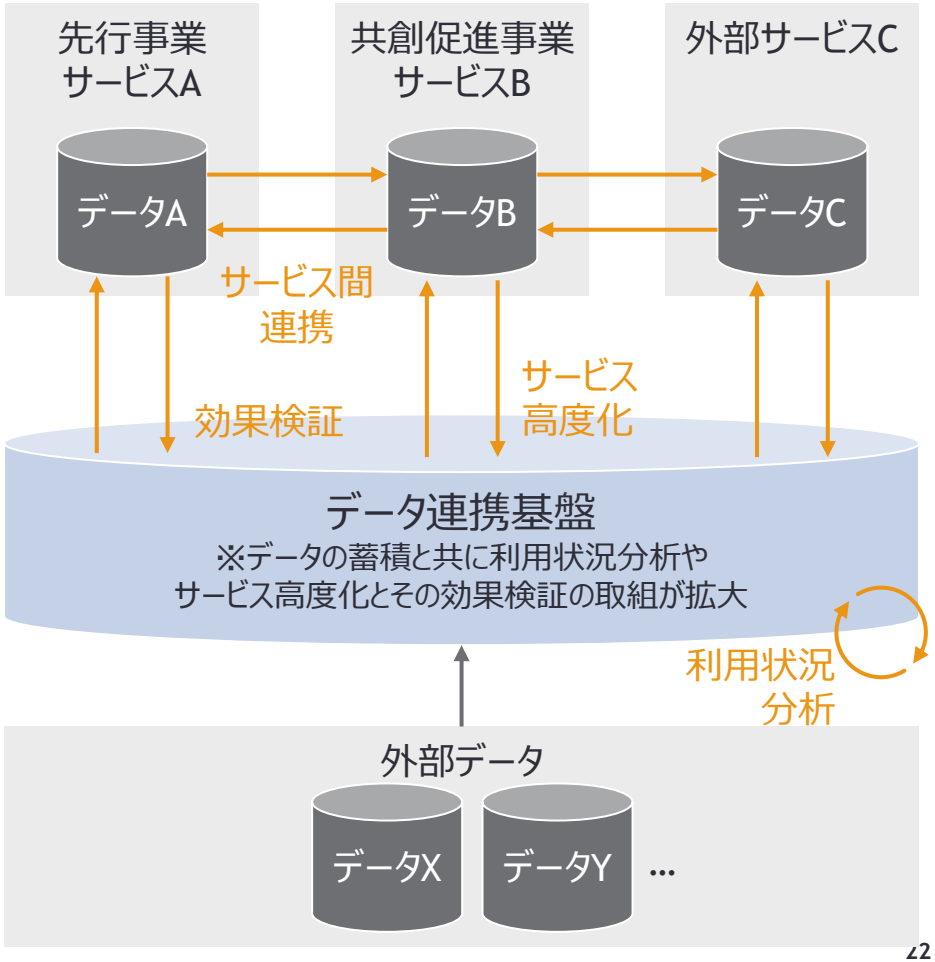
2025年度の開発範囲イメージ

- 2025年度開発完了時は、その時点での先行／共創促進事業のサービス群、および外部データとの連携をサポート
- ユーザ属性やサービス利用履歴等はゼロベースで蓄積開始



2026年度以降の拡張イメージ

- 2026年度運用開始後、データの蓄積と共にデータを活用したサービスの高度化やその効果検証の取組が拡大
- 具体では2.2章の業務要求にある各サービスのレコメンド、フレイル予防サービスによる医療費適正化の効果検証　等



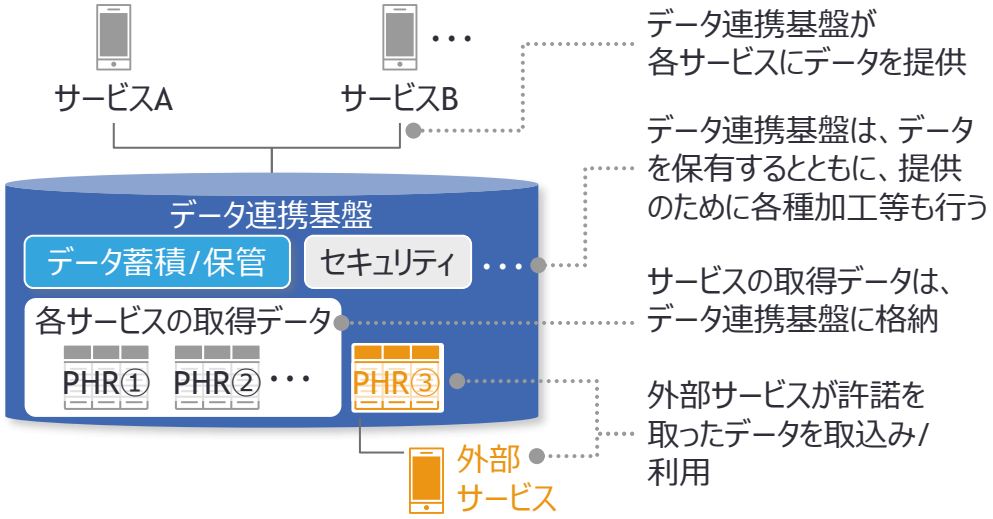
❷データ連携基盤詳細：データ蓄積・保有の方針について

サービス等を介して取得するデータの蓄積・保有については、大きく ⅰ / ⅱ の2パターンに分別されると理解した上で、中間として ⅲハイブリッド型 (データ連携基盤で一部データ (基本4情報、会員・ログイン情報、健診情報、一部PHRデータ等) を保有) も想定

ⅰ 集約型

データ連携基盤は、データ連携の当事者

- データ連携に伴うプライバシー保護の責任はデータ連携基盤 (コンソーシアム/県) が負う

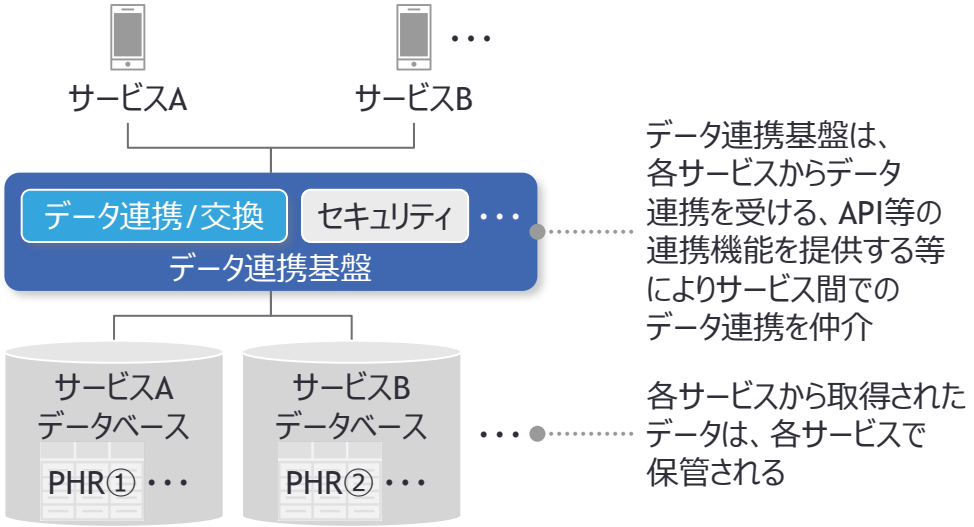


データ連携基盤側の負担は大、
サービス事業者の負担は比較的小

ⅱ 分散型

データ連携基盤は、データ連携の仲介者

- データ連携に伴うプライバシー保護の責任はデータ取得/利用者 (サービス事業者等) が負う



データ連携基盤側の負担は小、
サービス事業者の負担は比較的大

ⅱ 分散型 ないしは ⅲハイブリッド型 のいずれかで提案頂きたい
（分散型の場合は、基本4情報等の管理方針についても合わせて提案頂きたい）

❷データ連携基盤(1/2)

分類	機能名	詳細	要求レベル	実現時期
ID管理	ID付与	利用者向けに連携基盤IDを用意。 その他、接続事業者向け、基盤管理者向けのIDも必要	必須 加点幅あり	2025年度
	ID連携/SSO	ポータルを含む連携サービスのIDを紐づけて管理する。シングルサインオンも可能とする 一般利用者は基本的には連携基盤のみにログインすることはない。ポータルのIDまたは各サービスのIDを通じて基盤を利用	必須 加点幅あり	2025年度
	本人確認	本人確認書類もしくは電子証明書を用いたオンラインで完結可能な本人確認（eKYC）を実施し、利用者のID発行を実施する。※ ワ方式（公的個人認証サービス利用）等、より強度の高い本人確認手法への将来的な対応方針についても提案を求める。	必須 加点幅あり	2025年度
	同意管理	サービス間のデータ連携に関する同意を管理できる機能。 サービス単位で提供されるデータを定義し、利用側の利用目的に対して同意をする (包括同意にはせず、個別に同意) • オプトイン機能は実装を必須 • ポータル上で同意した内容を確認できるようなユーザビリティ担保の提案も行うこと	必須 加点幅あり	2025年度
サービス管理	サービスアカウント管理／ライフサイクル管理	ポータルで提供される各サービスの情報登録/更新を基盤上でアカウント管理できるよう、各サービス事業担当者にIDを振り出す。ポータルで提供される各サービスのポータル掲載期間を管理 各事業者の登録・更新情報を本番反映する際に、県・コンソーシアムが事前確認・承認する機能を有すること	必須	2025年度
	サブスクリプション(収益配分管理)	ユーザー個人が接続サービスに課金（主にバンドル提供を想定）する際のサブスクリプション機能	推奨 (低)	ー

※ eKYCの方式については、https://www.fsa.go.jp/common/law/guide/kakunin-qa/2.pdf を参照

❷データ連携基盤(2/2)

分類	機能名	詳細	要求レベル	実現時期
データ連携	HL7 FHIR準拠	医療機関・行政機関等へのデータ提供を可能とした、HL7 FHIRにも準拠した基盤とすること。	必須	2027年度頃
	伝送/連携	連携先に適切にデータを伝送する	必須	2025年度
	連携/認証管理	正しい連携先であることを確認する	必須	2025年度
	変換/処理	取得したデータを、データ分析できる形に変換する(ETL) ※ 各データの変換ロジックはローンチ後、分析の用途に合わせて順次追加	必須	2027年度
データ管理	データカタログ	基盤に接続する先行・共創促進事業のサービス提供事業者間で利用できるデータが分かる目録を用意し、公開できるようにすること。 なお、以下の点について考慮すること（任意の提案事項） • 各データにメタデータを付与できるようにすること • 実際のサポート体制を含め提案すること（接続事業者のサポート、マニュアル整備、接続方式の簡易化等）	必須 加点幅あり	2025年度
	仲介	各サービス事業者間でどのデータをやり取りするための情報管理	必須	2025年度
	保存/蓄積	ポータルアプリで収集したデータや、先行・共創促進事業で収集したデータを保存・蓄積する機能 • PHRサービス事業者等の外部サービスと連携し、基盤外で保存・蓄積したデータを活用できる状態にしておくことも可とする	必須	2027年度
	データ管理	データの利用状況や蓄積状況を管理	必須	2025年度
	データ分析	各サービスの利用を促進するための機能（おすすめサービスのレコメンド等）	必須 加点幅あり	2027年度
		クロス集計や相関分析、A/Bテスト等、各サービス導入による効果を可視化／検証できる機能（医療費適正化分析等）	推奨 (高)	ー

❸その他(1/1)

分類	機能名	詳細	要求レベル	実現時期
バック サービス	決済	提供サービスの利用申し込みの際の支払機能 ※ ブループリントでは外部決済代行サービスの活用を想定した配置となっているが、ECモールやサブスクリプション機能の一部としての提案も可	推奨 (低)	ー
サービス 運営業務 サポート	その他	コンソーシアムが担う本事業のサービス運営業務をサポートするツール機能 本機能は2-2 業務要求（後述）において要求整理／設計する2026年度以降のサービス運営業務をサポートするツール機能となる。 具体的には以下等を想定するが、設計・開発が不要なSaaSやパッケージ適用等、他の事務業務の必要性も含めて貴社のサービス事業の経験に基づき提案頂きたい • 営業管理 ポータル含むあいちヘルスケアの利用拡大に向けた営業／販促業務の管理 目標管理（KGI/KPI）、営業／販促費の管理、市区町村や企業との折衝状況の管理 等 • 財務管理 コンソーシアムの保有する資金や資産等、経営資源の管理 B/S管理、P/L管理、予算管理　等 • 顧客管理（CRM） 利用者の利用状況を調査・分析し、利用促進に繋がるマーケティング施策を実施する • カスタマーサポート ユーザからの要望／クレーム等の管理 サービスに対する要望、機能やユーザビリティへのクレーム等の管理、各サービス事業者への対応依頼も含む進捗管理　等	推奨 (低)	ー

Agenda

1. 依頼の背景とプロジェクト概要
   - 1.1 依頼の背景と目的
   - 1.2 プロジェクト概要
   - 1.3 ビジネスマイルストーン・スケジュール

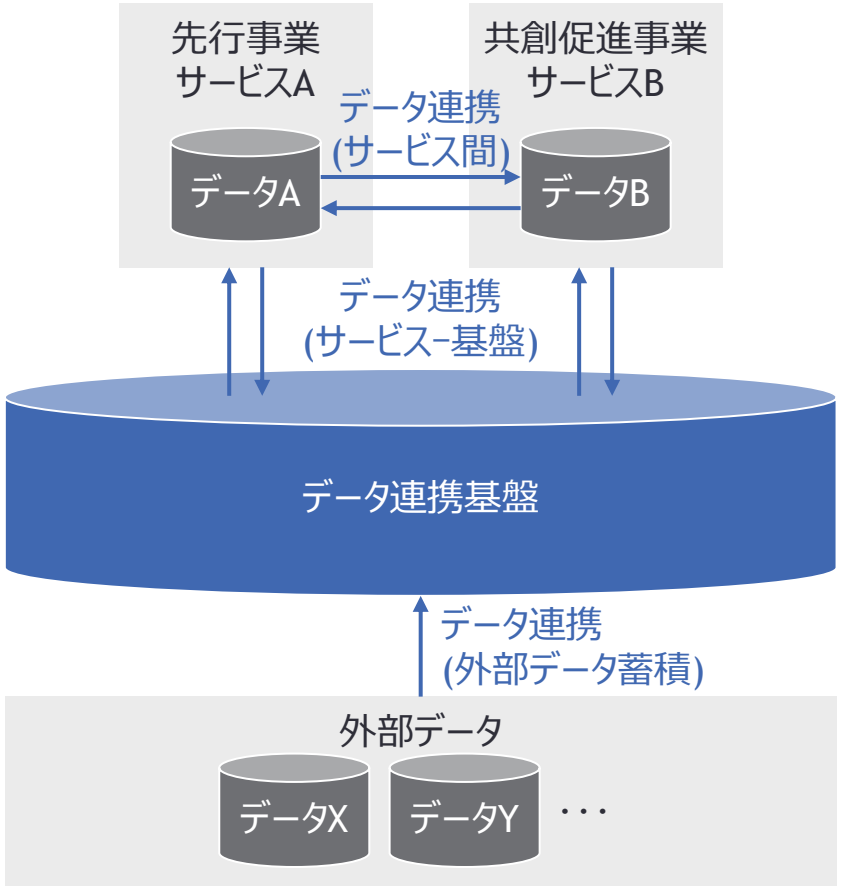
2. 依頼概要
   - 2.1 サービス/システム概要：目指す姿
   - 2.2 ポータル・データ基盤に求められる事項
     - 機能要求
     - 業務要求
     - 非機能要求
   - 2.3 プロジェクト管理に関する事項
   - 2.4 その他の事項

ローンチ後のサービス運営業務：活動イメージについて

2025年度はポータルおよび基盤を構築。加えて、2026年度以降は各サービスの高度化/効果検証ためのサービス運営を想定するため、それらを見据えた業務設計を整備する。

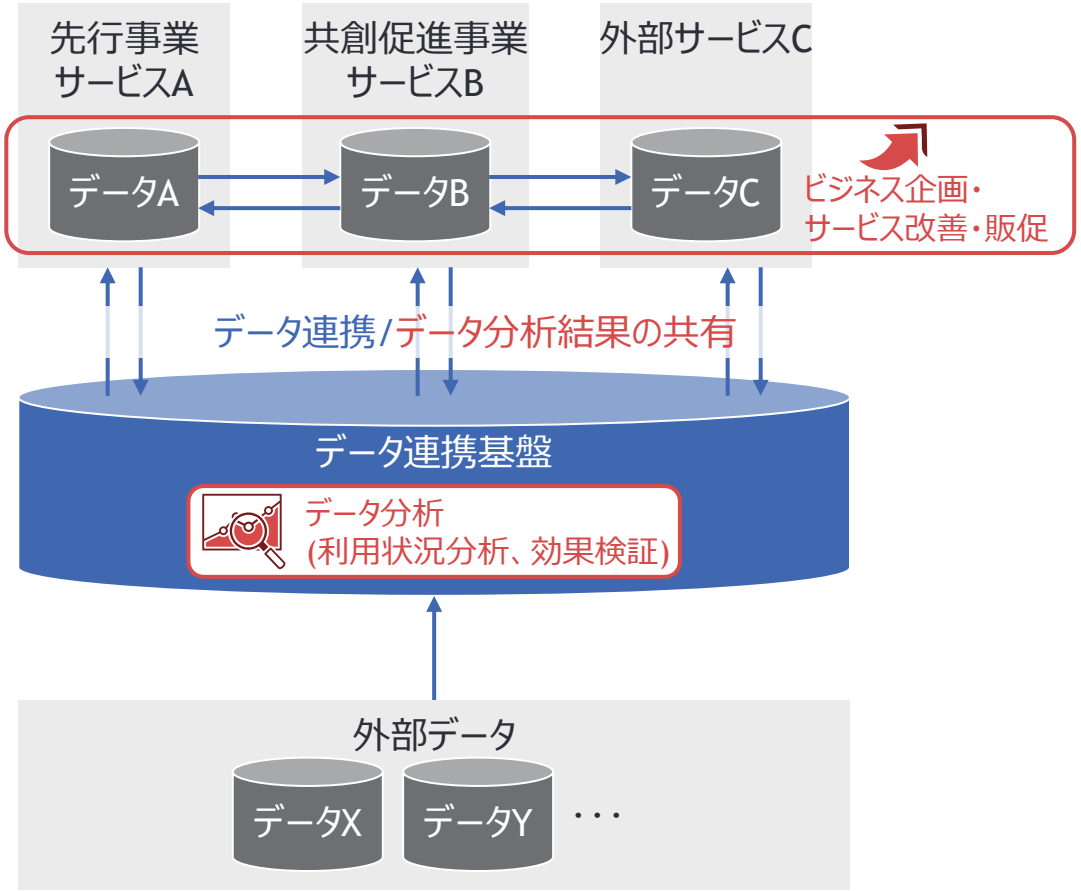
2025年度の開発範囲イメージ

- 2025年度開発完了時点での先行/共創促進事業のサービス群、および外部データとの連携をサポート
- ユーザ属性やサービス利用履歴等はゼロベースで蓄積開始



2026年度以降のデータを活用したサービス改善のイメージ

- 2026年度運用開始後、データの蓄積と共にデータを活用したサービスの高度化やその効果検証の取組が拡大
  - 具体的にはデータ分析/ビジネス企画等を想定 (次頁参照)



ローンチ後のサービス運営業務：業務要求の全体像について

2026年度以降はポータルや先行・共創のサービスを改善していくための以下の業務を段階的に拡充することを想定する
本事業のどの段階で各業務を立ち上げていくかを整理し、2026年度必要分に関しては2025年度に設計・構築も実施する

分類	役割	業務の概要	実施主体／業務要求（現状想定）	
ビジネス／データ面	ビジネス企画・サービス改善	現状のKGI/KPIを把握し、それらを向上させるための新たな施策を企画	コンソーシアム	• 利用ユーザ数やNPS等の事業・営業指標の管理 • ユーザからの要望やクレームの調査／分析 • ポータル／各サービス事業者への改善策の提示
	マーケティング・業務企画	施策実行に向け、適切な顧客ターゲット/タイミングでのプロモーションを企画、サービス運営に必要となる業務とその運営体制を企画	コンソーシアム	• 広告出稿やポイント施策等の販促企画・実行 • 販促費予算、ROI等の財務管理 • 顧客管理、サービスレコメンド等のポータルや各サービスに実装する販促機能の要件出し
	データ分析	データ集計・分析により、各サービスの利用状況可視化や各種サービスの導入効果を検証	ベンダー	• 基礎集計（月次、年間等）、実績評価 • 施策の効果検証／要因分析 フレイル予防サービスによる医療費適正化　等 • サービスレコメンドのモデル企画・設計
	データ整備	ユーザの属性情報、行動履歴等から必要なデータを収集し、分析データベースを整備	ベンダー	• データのクレンジング／名寄せ • 分析データベースの設計、運用
サービス／システム面	サービス・UI/UXデザイン	顧客ニーズ、市場動向に合わせて、サービス・プロダクトの提供価値を向上	ベンダー	• ユーザ調査や既存類似サービス調査 • サービス設計やシステム開発仕様の策定
	サービスサポート業務	ユーザ、サービス提供事業者、営業スタッフ等の管理、ヘルプデスク運営等のサポート業務の実施	コンソーシアム・ベンダー	• ユーザからの問い合わせ対応 • 問い合わせ内容の進捗管理、問題解決に向けた分析／施策検討
	システム開発	対応するKPIにより優先順位付けされた施策(アプリ改善、機能追加) を順次開発・運用	ベンダー	• アプリや基盤機能の設計／開発 • ポータルおよびデータ連携基盤の運用・保守

2025年度初期開発工程、役割、成果物（現状想定）

前頁で提示した業務の設計・構築のため、2025年度は以下の工程等を想定。記載されている工程等は参考であるため、要求事項とマイルストーン目標を見据え、貴社で必要と想定する工程、成果物等をご提案頂きたい

開発工程（想定）

	貴社		県/コンソーシアム
	役割	成果物	役割
業務要求整理	• 前頁で示したものを含むポータルや先行・共創サービス、データ連携基盤を運営・改善していくために必要な業務の洗い出し • 洗い出した業務について精査し、要求を具体化	• 業務要求一覧	• プロジェクトオーナーとして、業務要件の提示、および各工程で必要な意思決定や人員整備・ツール調達を実施 • 成果物を最終確認、および承認
業務設計	• 整理した業務要求のそれぞれについて、実際に運営するための運用 (業務) を設計 • 設計に当たっては、使用するツールの想定も行い、必要に応じて調達の準備をおこなう	• 業務定義書 - 業務フロー図 - 関係者/担当者整理 - ツール要求/調達候補案	
体制検討	• 設計した業務を運用するために必要な体制を検討 • 必要な人員の規模/ケイパビリティを仮設定	• 体制/人材定義 - 体制図 - 人材要求 (規模、ケイパビリティ等)	
人員/ツール整備	• 体制構築に必要な人員を具体名で整理し、業務運用可能な実際の体制を整備 • 併せて、運用に必要なツールの調達や業務マニュアルの整備を実施	• 体制図 • ツール導入手順書 • 業務マニュアル	
業務テスト	• 具体人員/ツールを想定/使用し、実業務を想定し、業務を運営 • テストに当たってはマニュアルを使った訓練等、実施手順を準備	• テスト計画書 • テスト結果	

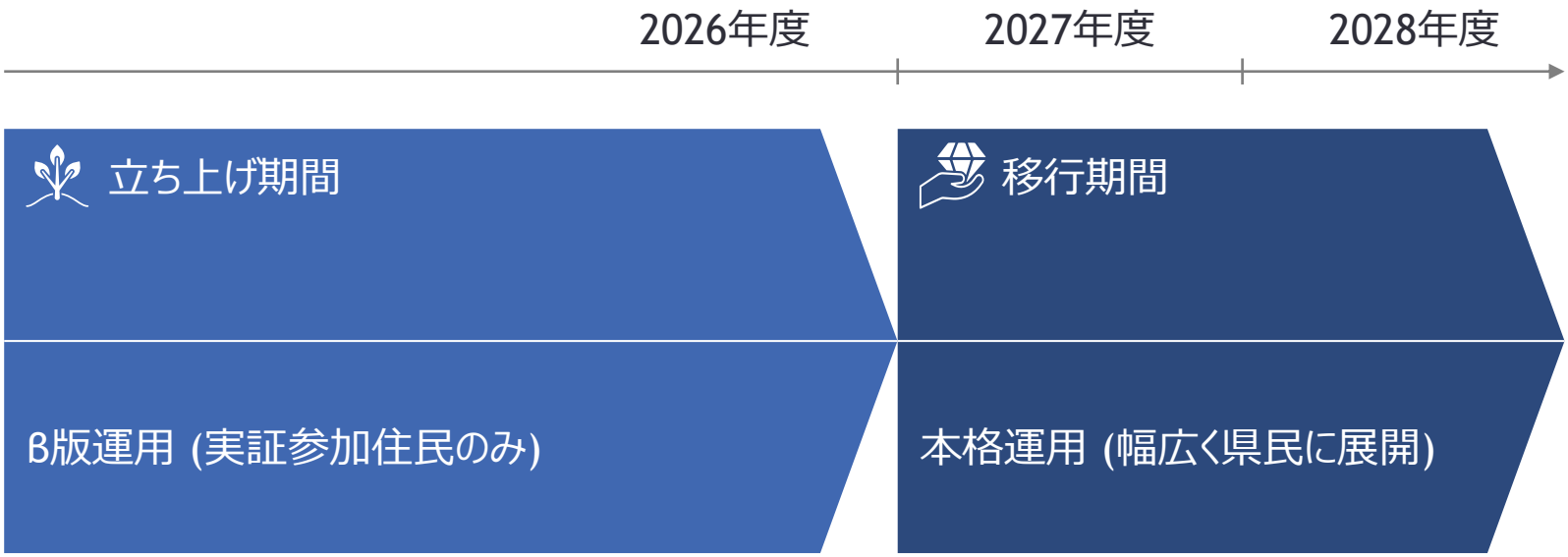
Agenda

1. 依頼の背景とプロジェクト概要
   - 1.1 依頼の背景と目的
   - 1.2 プロジェクト概要
   - 1.3 ビジネスマイルストーン・スケジュール

2. 依頼概要
   - 2.1 サービス/システム概要：目指す姿
   - 2.2 ポータル・データ基盤に求められる事項
     - 機能要求
     - 業務要求
     - 非機能要求
   - 2.3 プロジェクト管理に関する事項
   - 2.4 その他の事項

想定するユーザ・サービスの規模

2026年度のβ版運用フェーズでは小規模に開始し、2027年度以降拡大する想定とする



ビジネス(想定)	ユーザー数	1,000名程度	17,700名程度 (基本計画KPI)
	サービス数	13サービス (先行/共創事業)	22サービス (先行/共創事業+α)

セキュリティ要件

- 個人向けのインターネットサービスの基本的なセキュリティ要件を定める
  - 本サービス特記事項としては、プライバシー管理。個人の医療情報を取り扱うことを前提に、最小権限の原則に則り、権限制御により機密性の高いデータへのアクセスコントロールを行い、権限を持たない個人や各事業者からのアクセスは原則禁止とする。
- 総務省スマートシティセキュリティガイドラインに準拠し、愛知県の情報セキュリティポリシー等内部統制に係る関連法令の要件を加味したセキュリティ設計を実施することとする。

要件区分	内容
アクセス制御	• システム上の操作権限は必要最小限とし、権限設定により、個人/部門/ロールに よって制御が可能であること • NWレベルでのアクセス制限設定 (アクセス元/ポート) は、必要最低限の通信のみ許可する設定とすること
データ暗号化	• データベース等に格納されている個人情報やパスワード等の重要情報の漏洩の脅威に対抗するため、個人情報等の重要データにはデータ暗号化を実施すること • インターネットを介したシステム外への通信は暗号化を行うこと
ログ	• すべてのサーバーは、ログイン/ログオフ時に、①ログイン・ログオフユーザー、②ログオン・ログオフの時間、③アクセス元IPアドレスを記録すること。また、ログイン成功したもの、拒否したもの両方のログを取得すること • 機密情報のエクスポート機能の操作履歴を記録すること • Webシステムにおいては、上記に加え、①アクセス日時、②閲覧したページ、③HTTPメソッド (GET・POST 等)、④HTTPステータスを記録すること • アクセスログ内には個人を特定できる情報 (名前、住所) は含めない • ログの保持期間は最低2年とし、その後も必要に応じてアーカイブする
その他のセキュリティ対策	• セキュリティパッチの適用は1年に1回程度の頻度を想定するが、緊急性の高いパッチはこの限りではない。セキュリティパッチ適用時は、まず開発/検証環境にて検証を実施した後、本番環境に適用する • マルウェア対策ソフトを導入すること • アプリの実装においても、セキュリティの考慮を行うこと (セキュアコーディング) • 社外からのリモートアクセスは原則許可しない。必要となる場合はコンソーシアムに実施内容を報告し、許可を得ること • 不正・異常アクセスを検知する仕組みを構築し、適切かつ迅速な処置を実施すること • データセンターのロケーションは原則国内とする。（ただし海外にしかないクラウドマネージドサービス利用等は除く）。

システム運用要件

- インターネットサービスとなるため、基本24時間365日の監視体制/障害対応の運用体制を要求する
- 定常保守(パッチ適用やバックアップ)業務についても要件を定める
- 上記システム面に加えて、保守に関する依頼・相談窓口の提供を求める

- 共同利用型サービスを提案するベンダーに関しては、SLAに加えて具体的な運用体制や共同利用型における個社対応人員の考え方、他社サービスにおける障害発生時の影響範囲や対応実績等の情報開示を補足事項として提示頂きたい

区分	項目	要件
システム	ポータル／ データ連携基盤	以下監視/運用サービスを提供すること • 監視サービス提供時間: 24時間365日 - 提供内容: 監視対応 (サービス/CPU/リソース監視)、障害時のサービス復旧対応、コンソーシアムへの連絡 (障害発生～復旧連絡まで) - 連絡方法: 異常検知時の電話 + メール連絡 • 運用サービス - 提供時間: 9時～18時 - 提供内容: 定期的なセキュリティに関連するパッチ当て/Ver-Up作業、バックアップ取得など定期メンテ作業、システム管理者からの各種機能問い合わせ対応 - 連絡方法: 電話、メール連絡
保守窓口	保守に関する 依頼・相談窓口	問い合わせは、以下日時にて対応可能であること • 専用フォーム: 24時間365日 • 電話受付: 9時～18時

可用性要件

- システム稼働率を99．５％と定める。
- 障害に対するサービス対応方針として、データセンター内障害・地域障害・広域障害の3つの基準を設け、障害規模に応じた対応を行うものとする。
- 大規模障害／大規模災害発生時は、一部サービス停止による影響範囲の特定と事後処理の複雑化を割けるため、ポータルサイト等で全サービスの受付を閉塞する方針とする。

要件区分	内容
目標復旧水準 (業務停止時)	• RPO（目標復旧地点）：障害発生時点の状態への復旧を目標とする • RTO（目標復旧時間）：H/W, S/W障害は即時切替、データ障害時は24時間以内 • RLO（目標復旧レベル）：全ての業務とします
システム稼働率	• 本番機について大規模な改修の際などの計画的保守を除き、99.5%
耐障害性	• データセンター内障害：クラウド上で可用性を考慮した構成とすることで対応する • 地域障害（日本国内の一部地域）：考慮しない。ただし、バックアップからの復旧ができるよう、バックアップは取得すること。 • 広域障害（日本国内全体）：考慮しない。ただし、バックアップからの復旧ができるよう、バックアップは取得すること。
大規模障害時の サービス閉塞	• 大規模障害や大規模災害発生時に、全てのサービスの受付を即座に停止する仕組みを構築すること。

拡張性要件

- 前述のユーザ数／サービス数の拡大プランに則り、ローンチ後にユーザ数やアクセス数が増加した場合も以下のリソース拡張方針に則り、拡張可能な初期構成とする。
- 業務ピーク時等に一時的に高負荷となった場合には、アプリケーションの停止がなく、柔軟な拡張性が担保できることとする。

要件区分	内容
リソース拡張	• サーバリソース（CPU、メモリ等）の拡張が可能な構成とすること。 • 将来を見越した増加率も加味した見積とすること • 業務ピーク時等においても、アプリケーションの停止なく、柔軟な拡張性が担保できること。 アプリケーション停止を必要とする場合、その状況と想定停止期間を提示すること。

性能要件

- 本システムはポータル／各ヘルスケアサービス／データ連携基盤が個人に関するデータやサービス情報をオンラインで連携して、個人にサービス提供する方式を取るため、基本的に各システム間のデータ連携はリアルタイムを前提とする。
  例：ユーザAさんがポータルのダッシュボード画面を開いた際に、ポータルが各サービスからAさんのヘルスケア情報をAPIで取得し、必要に応じてポータル側のDBにAさんの情報を蓄積する
- ユーザのサービス利用時のデータ連携以外で各システム間でデータ連携が必要なケース（複数ユーザに関する大量データの参照／更新など）については、性能面のボトルネックとなり得るを考慮し、必要に応じてバッチ処理等の対応方針を要件定義において明確化することとする。

要件区分	内容
性能目標値	• オンライン処理において業務処理要求開始から応答画面が表示されるまでの時間は3秒以内を目標とする。ただし、大量データの参照／更新があるものについては、要件定義時に明確にして対策を協議すること。 また、既に3秒以内が厳しいことが分かっている処理があれば、提案時に提示すること。 • データ連携におけるリアル／バッチの考え方について、基本的にデータ連携はリアルタイムとするが、整合性上の問題、レスポンス上の問題が有りうる場合においてはバッチでも構わない。尚、大量データ連携＝夜間バッチでは無く、日中でも連携できるものと考える。

その他 考慮事項

以下を前提としてご検討いただきたい

実現方針 (及び その実装) に当たっては、以下を考慮/準拠すること

- データ連携基盤はデジタル庁が公表するシステムカタログに掲載されていること
- 内閣府「スマートシティリファレンスアーキテクチャホワイトペーパー」に準拠した構成とし、他自治体等が構築を進めるデータ連携基盤とのデータ連携を可能とする
- 将来的には、厚労省が整備を予定している全国医療情報プラットフォームとのデータ連携も視野に入れる
- その他、本件で想定する以下のデータを取扱うために必要な規制 (法律、ガイドライン等) に準拠する。以下の規制を想定するが、他にも必要なものがあれば明記すること

本件で想定する取扱いデータ	• 個人情報 基本4情報 (氏名、住所、生年月日、性別) • その他ヘルスケアデータ (健診データ 等) ※ データ基盤内に蓄積するかどうかは検討中。現時点では外部連携を想定
現時点で想定される対応規制	• 個人情報保護法 ※ ヘルスケアデータの取り扱いに係る規制（次世代医療基盤法、3省2ガイドライン、策定が見込まれるEUのヘルスケア関連規制等）は本事業における取り扱いデータの範囲を踏まえて依拠すべきかを要件定義時に協議予定

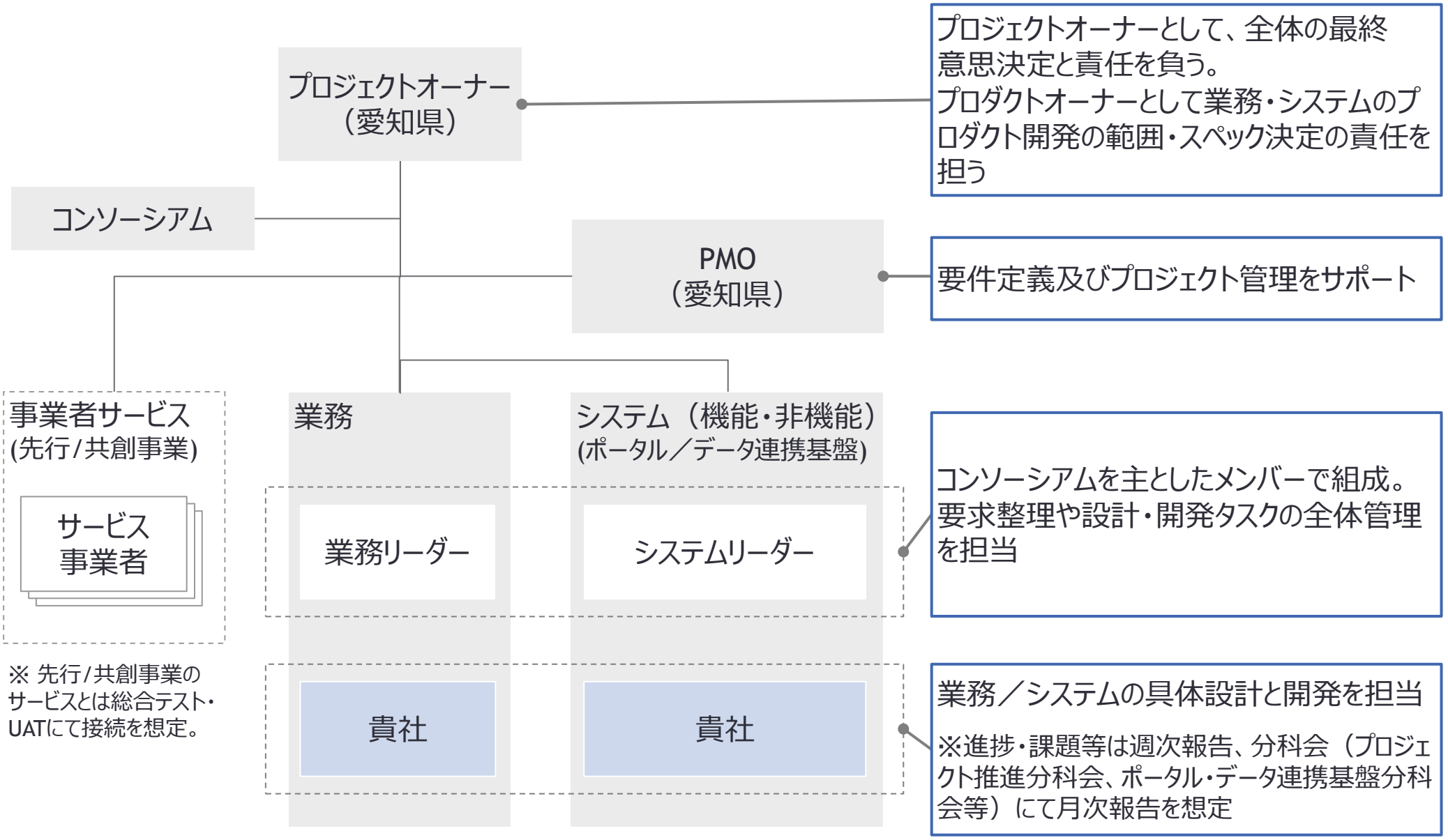
Agenda

1. 依頼の背景とプロジェクト概要
   - 1.1 依頼の背景と目的
   - 1.2 プロジェクト概要
   - 1.3 ビジネスマイルストーン・スケジュール

2. 依頼概要
   - 2.1 サービス/システム概要：目指す姿
   - 2.2 ポータル・データ基盤に求められる事項
     - 機能要求
     - 業務要求
     - 非機能要求
   - 2.3 プロジェクト管理に関する事項
   - 2.4 その他の事項

2025年度初期開発プロジェクト体制

プロジェクト体制は以下を想定



2025年度初期開発のマイルストーン（現状想定）

- プロジェクト開始を2025年5月末、ローンチターゲットを2026年3月末のマイルストーンとする。
- 工程として要件定義～UAT・ローンチのサポートまでを範囲とし、貴社でのソフトウェア開発物工完となったタイミングで納品いただき、検収を実施させていただく。サービス提案の場合は、本プロジェクト固有要件に関する検収の観点より、貴社で納品いただける成果物の範囲を提案書で提示頂きたい。
    - 2026年度のβ版運用に向けた、先行事業・共創事業のサービスとの連携のテスト・UATも範囲として頂きたい
- 記載されている工程は参考レベル。要求事項とマイルストーン目標を見据え、貴社の想定する工程を提案頂きたい。

2025年度初期開発工程、役割、成果物（現状想定）

2025年度システム開発は以下の工程等を想定。記載されている工程等は参考であるため、要求事項とマイルストーン目標を見据え、貴社で必要と想定する工程、成果物等をご提案頂きたい

システム開発（想定）

	貴社		県/コンソーシアム
	役割	成果物	役割
要件定義	• システム化の前提となる背景／スコープ／コンセプト、システム全体構成、機能・非機能要求を網羅的に整理 • UI/UXは情報設計や画面遷移設計によるビジュアルな要件を導出	• システム要件定義書	• プロジェクトオーナーとして、システム要件の提示、および各工程で必要な意思決定や各所との折衝を実施 • 成果物を最終確認、および承認
基本設計／テスト計画	• 画面やシステム間連携I/Fなどの外部設計、処理フローや機能連関、DB構造などの内部設計を実施 • テスト工程や品質目標等の全体計画	• 基本設計書 • 全体テスト計画	
開発／単体・連結テスト	• 各ソフトウェアモジュールの単体設計／開発／テスト • モジュール間／システム間の連結テスト	• 詳細設計書 • ソフトウェア開発物 • テストケース • テスト結果分析	
総合テスト	• 業務およびサービスの具体的な利用・運用シナリオに基づいたテスト • 性能やセキュリティ等の非機能面に関する包括的な検証	• テストケース • 総合テスト計画／報告書	

UAT/業務訓練/ローンチ準備	• 納品物件に関する受入テストのサポート
	• ローンチに向けた運営要員の訓練
	  • 業務マニュアルを活用した網羅的オペ訓練
	  • 総合テストシナリオやリリース手順を活用したフローを意識したシナリオ訓練
	• リリース手順のリハーサル／リリース作業
		• UAT計画／報告書
		• 業務訓練計画／報告書
		• リリース計画／報告書	

体制／人員に関する要求事項

下記の要件を満たしていることを記載した資料と共に実施体制図を提出すること

1. 官公庁向けの情報システム及び補助金事業に係る情報システムを構築・導入・運用した実績・経験を有し、本紙に示すスケジュール・マイルストーンに準拠し、本業務遂行を確実とする履行体制 (品質管理体制・支援体制を含む) を確保していること
2. 構成要員の要員数、体制、役割が明確であり、主要な業務従事者の氏名、所属、役割、業務経験、その他略歴 (専門的知識その他知見 等) がわかること
3. クラウドサービスを活用した Web サイトを構築および運用した実績がある者を含んだ体制であること
4. 本業務を統括的に管理するプロジェクトマネージャを配置すること。当該プロジェクトマネージャは、本事業におけるポータルアプリ及びデータ連携基盤やデータ分析のように、各種サービスおよびそれを支える分析や基盤の連携等の複雑な運営要素に関するプロジェクトマネージメントを過去に担当した実績を持ち、責任ある立場でプロジェクト遂行にあたること。情報処理技術者試験のプロジェクトマネージャ試験 (PM) またはProject Management Professional (PMP) やそれと同等以上の資格等を取得後2年以上の実務経験を有する者がプロジェクト管理者であることが望ましい
5. プロジェクトメンバーに変更が生じる場合、その旨を 委託担当者に報告し、承認を得ること。また、交代する際には現状より能力、技術力、経験等の質を落としてはならない
6. 本業務に従事する者は、日本語での会話及び読み書きが可能で、委託担当者と十分な意思疎通が図れること
7. 業務の役割を定めた実働可能な人数を確保すること
8. 情報セキュリティ対策の観点から、情報処理技術者試験の情報処理安全確保支援士試験の合格者またはそれと同等以上の資格等を取得後 2 年以上の実務経験を有する要員が含まれることが望ましい
9. 高度なフロントエンド技術を有する者、または知見を有する要員が含まれることが望ましい

プロジェクト管理に関する依頼事項 (1/2)

業務全体の計画、リスク等のプロジェクト管理方法を記載した「プロジェクト計画書」を提出すること

進捗管理

各タスクの状況及びスケジュール管理を行うため、次の要件を満たす進捗管理を実施すること

1. WBS (Work Breakdown Structure) 等により作業工程ごとに必要な成果物、作業タスクを明確にすること
2. プロジェクトの進捗状況を管理する進捗管理表及び各作業タスクの進捗状況等を定量的に分析した報告書を定期的 (頻度は議論の上決定) に作成及び提出し、委託者の承認を得ること
3. 計画から遅れが生じた場合は、原因を調査し、要員追加や担当者変更等の体制見直しも考慮した改善策を提示し、委託者の承認を得た上で、実施すること

品質管理

開発するシステム及び設計書等の成果物の品質を保証するため、次の要件を満たす品質管理を実施すること

1. 作業工程ごと及び納入成果物ごとに品質評価基準等を設定し、評価結果を委託者に報告すること
2. 検証、品質改善策の検討及び実施を管理する体制を構築するとともに、品質改善のための各種取組が、事前に決められた手続に則って実施されていることを的確に確認・報告すること

リスク管理

本業務の円滑な進行を阻害する業務内外のリスクを特定し、対応策の検討及び実施状況等を管理するため、次の要件を満たすリスク管理を実施すること

1. 業務の遂行に影響を与えるリスクを特定し、その発生要因、発生可能性、影響度及びリスク軽減策を整理すること
2. 定期的にリスクを監視及び評価し、その結果を委託者と共有することで、リスクによる影響の抑制に努めること
3. リスクの発生に備え、緊急対応時の体制及び計画を整備すること

プロジェクト管理に関する依頼事項 (1/2)

業務全体の計画、リスク等のプロジェクト管理方法を記載した「プロジェクト計画書」を提出すること

課題管理

業務遂行中に発生した各種課題を管理するため、次の要件を満たす課題管理を実施すること

1. 課題の内容、発生日、優先度、解決予定日、担当者、対応状況、対応策、対応結果及び解決日等の情報を一元的に管理すること
2. 定期的に対応状況を確認及び報告し、課題の経過状況を委託者と共有することで、迅速な解決に取り組むこと

コミュニケーション管理

本業務に関する全ての参画者が円滑かつ効率的なコミュニケーションを可能とするため、次の要件を満たすコミュニケーション管理を実施すること

1. 本プロジェクトにおけるコミュニケーションを円滑に行うため、プロジェクト関連情報の作成、収集、配布、共有及び蓄積等の一連のプロセスに関するルールを策定すること
2. 進捗管理を始めとした日々の情報共有において、すべてメールでのやり取りを行うことは煩雑さや見落としの要因となるため、委託者へ提案の上、セキュリティに配慮した適切なコミュニケーションツールを用意すること
3. 作業工程ごとにおける各種作業に関する打合せ、成果物等のレビューのほか、進捗・課題等に関する報告を定期的に行うオンライン会議を開催すること。対面会議の場合は委託者にて行うが、来社する際にかかる旅費等の費用は請負者にて負担すること
4. 会議をオンラインで行う際には、使用について委託者に確認のうえ、オンライン会議ツールを請負者にて用意すること。また、セキュリティ対策に充分留意すること
5. 会議、報告会等については、会議の内容、対象者及び開催頻度等を明確にすること。 なお、会議の開催頻度等は、各作業工程の状況等を鑑みて、委託者と協議の上、必要に応じて変更すること
6. 会議及び報告会等が開催される都度、原則5営業日以内に議事録を提示し、委託者の承認を得ること。なお、課題事項や宿題事項については議事録の提出に先行し、会議終了後直ちに共有すること

Agenda

1. 依頼の背景とプロジェクト概要
   - 1.1 依頼の背景と目的
   - 1.2 プロジェクト概要
   - 1.3 ビジネスマイルストーン・スケジュール

2. 依頼概要
   - 2.1 サービス/システム概要：目指す姿
   - 2.2 ポータル・データ基盤に求められる事項
     - 機能要求
     - 業務要求
     - 非機能要求
   - 2.3 プロジェクト管理に関する事項
   - 2.4 その他の事項

その他、本業務で定める事項

要件区分	内容
不適合責任	• 本システム本運用開始後 1 年の間に、正当な理由無く、本仕様書で要求した性能水準に達していないことが判明した場合および設計ミスによる不良および不具合が判明した場合において、当県が改良を請求したときは、当県と協議の上、無償で改良すること。なお、この場合、不具合の改良のために操作内容を変更しないこと。 • 本システムを運用する上で必要な情報の提供に努め、当県からの障害発生時の情報開示請求などの問い合わせや助言要求に対して、誠意をもって対応すること。 • 受注者の責めに帰すべき理由により、第三者に損害を与えた場合、受注者がその損害を賠償すること。
新しい地方経済・生活環境創生交付金への対応	• 本システムは、新しい地方経済・生活環境創生交付金の交付決定を受けて実施するものである。 • そのため、本業務実施にあたっては、交付要綱にしたがって実施する必要があり、受託者は以下の点に留意して業務を行うこと。 ✓ 事業実施報告資料等の作成にあたって、本県の指示に基づき、必要な資料・情報を提供すること。 ✓ 業務委託料の実績内訳について、物品費、人件費、旅費、その他に分けて整理した様式を提出すること（別途指示をする）。なお、必要に応じて証憑書類（人件費単価の積算根拠、業務従事日誌等）の提出を求める場合がある。

その他、本業務で定める事項

要件区分	内容
知的財産権	• 新たに整備されたシステムは、新たに著作権の対象となることを前提として、業務遂行にあたること。 • 著作者人格権については、これを行使しないこととし、再委託 による開発があった場合についても同様とする。 なお、著作権の取扱いについては「 日本版バイ・ドール制度（産業技術力強化法第 17 条）」に準ずるものとする。 • システムがパッケージソフトウェア、または SaaS として提供される場合、パッケージソフトウェア、または SaaS の知的財産権は開発者に留保されるものとし、予め合意された利用許諾範囲内であれば発注者の利用を制限しないものとする。 • 本システムの稼働に必要なソフトウェアが SaaS として提供される場合は、本業務で開発されたシステムも含めて本業務の発注期間における発注者の利用（保守・運用）を保証するものとする。 • 受託者は、すべてのライセンス契約及び SaaS 契約について、発注者に代わり必要な登録作業を行うこと。 • 各機器の保証書、SaaS の利用条件書及びソフトウェアのライセンス契約書は、整理及びファイリングを行ったうえで発注者へ提出すること。 • 本システムを運用するにあたり、受託者は、受託者が保有する知的財産権に基づいて、発注者に対して、自ら権利侵害であるとの主張をせず、また、再委託先に権利侵害の主張をさせないことを保証するものとする。 • 受託者は、特許権、著作権等の知的財産権の対象となっている第三者の技術等を使用するときは、その仕様に関する一切の責任を負うこととする。また、それに係わる費用についても受託者が負担すること。
協議	• 本仕様書に定める事項に疑義が生じた場合、または本仕様書に定めのない事項（仕様変更、機能追加等）で協議の必要がある場合は、当県と協議を行うこと

愛知県